



第243号  
発行  
奥多摩町教育委員会



町公式ホームページ

令和8年2月1日現在	
児童数	130名
生徒数	72名
教職員数	51名

異なる言語や文化を知り、関係を構築する力の育成を目指して

中学校・高等学校で、あんなに学んだはずの英語ですが、卒業した途端に使うことも無く、中高年の世代では単語が少し頭をよぎる程度です。近年、小学校でも外国語の授業が始まり、グローバルな感覚を養っています。自身が異文化に触れたときに、自分の国の文化を伝えたい一心で毎朝、英語のラジオ講座を聞き始めました。ある日、試してみると、「通じる！」

広い世界が繋がった体験が異国の人との友情を深めてくれました。奥多摩町では、毎年夏に中学生、高校生を対象とした海外派遣事業を実施しています。令和7年度もオーストラリアのバイロンベイハイスクールと交流を行いました。私も現地に同行し、子供たちの活動を見守るとともに、持続可能な派遣事業について現地の先生方とも情報交換をしてきました。

この事業では、現地の学校生活を体験すると同時に、ホームステイを通して、言語や文化、現地の生活様式を学びます。今までに無い緊張と期待の面持ちで始まった13日間でしたが、奥多摩の生徒たちはあつという間に現地の生徒に溶け込み、登校風景や学校生活からは、行く前の不安な様子はどこにも見られなくなりました。最後のお別れのときには涙が止まらず、「絶対にまた会おう。さよならじゃないよ。すぐに連絡するからね。」とお世話になった皆さんへの感謝であふれました。美しい海岸沿いの小さな町バイロンベイで過ごした日々は、派遣団員の人生の中でも大きな経験となりました。

奥多摩町の学校教育、社会教育を通して、これからも国際的な視野をもった子供たちの育成を目指します。

教育長 野崎喜久美

外国語教育の推進

＜外国語指導助手（ALT）の配置＞

ネイティブスピーカーを町内の小・中学校に配置し、授業の充実に努めています。授業以外でも英語を使ってコミュニケーションを図る姿が見られています。



＜東京都の事業を活用した学び＞

「TOKYO GLOBAL GATEWAY」を訪問し、空港での手続きや買い物等でのコミュニケーションを体験的に学びます。小5・中2の子供たちが学習できるよう計画しています。



国際交流事業の推進

＜外国にルーツのある人々との交流＞

異なる言語や文化を知ることができるよう、外国にルーツのある人々との交流を実施しています。令和7年度は横田基地内のメンデル小学校を訪問しました。



＜奥多摩町海外派遣事業の実施＞

国際的な視野をもった次世代リーダーの育成を目指して、町内の中高生を派遣します。令和8年度もオーストラリアへ12名程度を派遣する予定です。



**全国中学生人権作文コンテスト  
東京都大会作文委員会賞受賞**

「全国中学生人権作文コンテスト」は、次代を担う中学生に日常や学校生活の中での体験を通して、豊かな人権感覚を身に付けることを目的として実施されています。

今年度は、奥多摩中学校3年生の杉村錦さんが、作文委員会賞を受賞されましたので紹介いたします。



**奥多摩中学校3年  
杉村 錦さん**

**【ルッキズムは悪か】**

大きな劇場で、スポットライトが照らす中、バレエダンサーがアラベスクやピルエットやグランパティシヤなどを美しく踊る姿を見て、私もやりたいと思ったのが六歳のときだ。

保育園の先生にも、「錦ちゃんはバレエに向いていると思うよ。」

と言われ、私はすっかりその気になった。

私は小学校に入学すると同時にバレエ教室へ通い始めた。最初は週一回だったが、もっとレッスンを増やしたくなり、小学三年生のとき別の教室に移った。そこでは自分より年下で自分より上手な子や自分より細い子がいる。しかも、一人だけではなく、何人もいて、そのことに非常に驚いた。もつと前からもつとたくさんレッスンに通うべきだったかもしれないと、焦りを感じたし、ほっそりとした体型で美しく踊る年下の先輩をとてもうらやましく思った。

私が高学年になってから、さらにバレエを極めたくなり、コンテナポラリータンやコンクール出場者用のレッスンを増やすことにした。

バレエコンクールに出場するようになってから私はさらに驚いた。出場者はみんな一様に手足が細く、長く、ウエストが引き締まっており、背も高く見え、何だか自分が小さく太っているように感じた。

バレエを踊るにあたって細かいことは大事な要素の一つではあるが、同時に細すぎることも問題視されている。例えば、ローザンヌ国際コンクールでは、極端なやせはダンサーの心身をむしろ、将来にわたってプロダンサーとして活躍するのにマイナスの影響を与える可能性があることから、ヘルスポリシーには出場者のやせすぎBMI値が定義されている。一四歳の場合一五・四とのことだ。ローレル

指数による判定では一〇〇未満がやせすぎと定義されている。私はBMI値でもローレル指数でもやせてはいても、「やせすぎ」の定義には当てはまらない。それでも中学校では、先生やクラスメイトが身体測定のために私の体重を気にかけ、心配する言葉を発した。

「ちゃんと食べてる？」  
「栄養足りてる？」  
「給食をもっと食べなさい。」

私を心配してくれているからこそその言葉であり、ありがたくもあるが、素直にうれしく思うことができない自分もいる。私は一日三食しっかり食べて

いるし、バレエのレッスン前には軽く食べてから運動している。バレエのレッスンは非常に体力を使うので食べても太らないのだ。休みの日には体力づくりのため、近所をジョギングして、テレビを見ながらストレッチをしている。

そもそも、私を含めバレエを習っている人が細いのは正しくレッスンをして日々鍛えているからであって、食事制限をしていることだけが理由ではない。短距離走のランナーは白筋と言われる大きな筋肉を使うのに対して、長距離走のランナーやバレエダンサーは赤筋と呼ばれる持続的に使うことができる筋肉を主に使う。それによって体型に違いが出る。

体型や見た目について調べていく中で、ルッキズムという言葉を知った。外見や身体的特徴に基づいて他者を差別する思想のことで、「外見差別」や「外見至上主義」とも訳される。ルッキズムにより摂食障害やメンタルヘルスなど心身の不調が起きたり、見た目を理由に能力が正当に評価されず、機会が奪われ

たりする。

ルッキズムへの対応として、従来の高身長で細いモデルだけでなく、プラスサイズモデルや障がいのある人もモデルとして起用されつつある。SDGs ー〇番にも「人や国の不平等をなくそう」と掲げられている。

一方、バレエは技術や表現力だけではなく、外見や体型などが重視される芸術であり、一見すると、ルッキズムの芸術とも言える。西洋人に見えるように肌を白く塗り、ノーズシャドウやハイライトを入れて、鼻が高く見えるように見せるバレエメイクは果たして悪なのか。

バレエの世界でも人種や文化の違いを乗り越えて、ダンサー自身の技術や表現力が評価されるようになってきているが、身長や体重は依然として重視されたままだ。それは果たして悪なのか。

私はルッキズムを重んじる、このような芸術もまた「文化」であり、大切にしていけるべき価値観なのではないかと思う。

ルッキズムも多様性の一つであり、さまざまな背景や歴史を

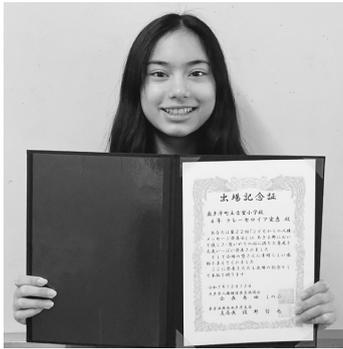
持つそれぞれの文化を尊重し、後世に引き継いでいくことが大切だ。

私が大好きなバレエという芸術が、今後も柔軟に多様性を受け入れながら世界中で多くの人に愛されることを願っている。



### こどもからの 人権メッセージ発表会

12月13日に、あきる野市五日地域交流センターまほろばにて開催された発表会で、古里小学校6年生、ラレーセロイア玄恵さんが人権メッセージを発表しましたので紹介いたします。



古里小学校6年  
ラレーセロイア玄恵さん

### 【戦争が起こらない世界】

「原爆ドームを自分の目でみてみたい。」

私は五年生の頃、授業で「たずねびと」という戦争に関する話を学んだ。そして春休みに家族で広島に行った。平和記念資料館では、「痛そう、苦しそう」と、色々な感情が湧き上がってきた。日本は八十年前にアメリカと戦争をしていた。私は何でこんなひどい事があったのかとショックを受けた。しかし、今でも世界の色々な場所で戦争をしている。

今、戦争によって家もなくな家族とも一緒に過ごせない人がいる。人間には、家族と一緒に、幸せな生活を送る権利がある。私は自分の家族と過ごし、お気に入りのベットで寝られる。学校に行って勉強もできる。それは私には当たり前のことだが、戦争が起きること、この当たり前の生活ができない人もいる。もし、自分の国が戦争をしていたら、「なんで大人の都合でこんな目に合わなくちゃいけないのかな」と失望する。戦争があると家族と離れて悲しい思いを

したり、攻撃を受けそうだと恐怖を感じたり、学校で友達とも会えなくなる。「戦争は自分に関係ない」と片付けるのではなく、私達にもできることがあるのではないだろうか。私はお互いに話し合っていくことが大切だと思う。

私も学校で移動教室の班を決める時に、とても時間がかかったけれど、話し合いを何度も繰り返したから解決出来たことがあった。

戦争をなくすために私達ができることは、戦うのではなく、話し合いをして、解決を目指していくことだ。人間は仲間だと思おう。相手にも大切な人や、家族や、命がある。だから相手のことも考え、戦争が起こらないように努力をして、争いが無い世界にしていきたい。私は、地球上の仲間が当たり前の生活を送れることを心から望んでいる。



※人権作文につきま  
しては、原文をそのまま掲載しております。

東京都小学生科学展



氷川小学校6年 齊藤 稔秀さん

1月25日に八王子の東京都... 齊藤稔秀さんが、「結露する条件とは」結露大研究」というテーマで口頭発表をしました。

きていました。また、自分の発表をよりよく相手に伝えるために練習してきた成果を存分に発揮し、聞き手の方をしっかりと見て、発表をしていました。



報告 氷川小 中原秀文

第19回全日本小学生ゴルフトーナメント in 福島大会、第11回東京都小学生ゴルフ大会 ダブル優勝!! 森田泰飛さん(氷川小学校3年生)が、10月19日に開催された第19回全日本小学生ゴルフトーナメント in 福島大会で優勝。また12月26日に開催された、第11回東京都小学生ゴルフ大会においても優勝されました。おめでとうございます。

図書館を活用しよう 2025貸出ランキングご紹介 〔一般図書〕 1位 教養としての「民法」入門 遠藤 研一郎 著 2位 カフネ 阿部 暁子 著 3位 新陰の大河 上田 秀人 著 4位 トラとミケ ねこまき 著 〔児童書〕 1位 幻獣最強王図鑑 学研プラス 2位 ポケモンをさがせ! ダイヤモンドパール 小学館 3位 異種最強王図鑑 学研プラス 4位 ポケモンをさがせ! エメラルド 小学館 皆さんも話題の本を読んでみませんか? たくさんのお本をご用意しております。

### 町制施行70周年記念 第64回加藤旗争奪駅伝競走大会開催

第64回加藤旗争奪駅伝競走大会が「町制施行70周年記念おくとまふれあい駅伝」として実施されました。今年は雨天のため式典は奥多摩文化会館で行われました。

出場チームは39チームで、大丹波コースは9チーム、川井コースは30チームで競い合い、川井コースには中学生男子6チームと女子3チーム、小学生男子4チームと女子2チームが参加しました。

各ランナーがウォーミングアップを終え、それぞれのスタート地点に立った10時30分、それまで降り続いた雨が止みました。雨でぬれた路上を、選手たちは、しっかりと地面をつかんで走っていました。小中学生から日頃鍛えているランナーまで多くの皆様に参加され、すべてのチームが日頃の成果を発揮しました。

沿道では、多くの方が熱い声援を送ってくださいました。また、今回は「清流太鼓」の皆

様による沿道での応援もあり、大会を盛り上げていただきました。ありがとうございます。



### ❖教育相談室より❖

#### 自分に「いいね」な毎日を

スクールソーシャルワーカー

堀部 浩子

SNSの投稿に「いいね」が付かないと落ち込んだり、自分の成果が褒められないと不安になったりした経験はありませんか？行動の基準が他人だと、評価は不安定で余計に落ち込んでしまいますよね。他者から拒否される経験が多く、疎外感が強い環境に長くいると、不健康な自己愛傾向が強くなり、自分の基準ではなく他人の評価をあてにするようになります。そうすると、必要以上に他人からたくさん褒められないと不安になりやすく、結果的にトラブルに発展したり、余計に苦しい気持ちになりました。

では、自分のものさしで行動できるようにするにはどうすればよいのでしょうか。それは、他人から受け入れられる経験を繰り返すことです。ポイントは、ただ受け入れてくれるのを待つ

のではなく、まず先に自分から他者を受け入れること。例えば、嬉しかったらありがとうと言う、笑顔で朝の挨拶をする…。人の脳は挨拶されたり笑顔を向けられたりすると、敵ではないと感じるそうです。上手くいかなくても、何度でも自分から声に出してみよう。そして徐々にあなた自身も他人から小さく受け入れられたと感じたら、ありのままの自分を褒められる日がくるはずですよ。

お子様への心配ごとや  
気になっていることがあれば  
まずは相談してください

#### 奥多摩町教育相談室

(奥多摩町福祉会館2階)

月～金曜日 午前9時～午後4時

TEL & FAX 83-2340

【学校式典のご案内】

卒業式

古里小学校

3月25日(水) 午前9時30分

氷川小学校

3月25日(水) 午前9時45分

奥多摩中学校

3月19日(木) 午前9時30分

入学式

古里小学校

4月8日(水) 午後1時15分

氷川小学校

4月8日(水) 午後1時25分

奥多摩中学校

4月7日(火) 午前9時30分

奥多摩水と緑のふれあい館より

〔オリジナルグッズ作り体験開催〕

奥多摩水と緑のふれあい館では、1月18日にオリジナルグッズ作り体験(参加費無料)を開催しました。

鹿の角や動物の形の木材を磨いて、オリジナルのストラップを作るワークショップで、小さなお子様から大人の方まで、皆様楽しんで作っていました。

奥多摩水と緑のふれあい館では、小河内貯水池(小河内ダム)の情報や、奥多摩町の郷土資料の展示も行っています。眺めのよいレストランや売店もありますので、お近くへお越しの際はぜひお立ち寄りください。



無線型緊急警報装置

「スクールガード」の導入

小・中学校での防犯対策の一環として、教室などに無線型の警報装置「スクールガード」を設置しました。この装置は、校内への不審者の侵入や教室内で病人・けが人等が発生した際に、どの教室で異常等が発生したのかを職員室に設置した電光掲示板に知らせ、すぐに対応できるようにするものです。また警報音が鳴るので、周囲にも注意を促せます。

町教育委員会では、引き続き、児童・生徒ならびに先生皆様が、安心・安全に学校生活を送れるよう、防犯対策に努めてまいります。

古里小学校

プールサイド改修工事完了

児童・生徒および夏季の一般開放で町民の皆様にご利用いただいております、古里小学校の屋内プール施設は、平成14年の利用開始から経年劣化等により、プールサイド床の塗装が、所々剥がれてきておりました。

この冬に屋内プール施設において、プールサイド床の改修工事を行いました。プールサイドの床には、水捌けもよく、滑りにくい材質のシートを張り巡らしました。

今後はより安全にプールをご利用いただけるようになります。

送信機兼警報器



電光掲示板



大プール(青色)



小プール(緑色)



### 東京都市町村教育委員会 連合会の研修会について

東京都市町村教育委員会連合会は、都内市町村の教育委員会が構成されています。昨年11月12日に奥多摩町において、連合会の研修会が開催されました。会場は、小河内貯水池（小河内ダム）管理施設と水と緑のふれあい館でした。施設の見学と講演会を開催し、およそ50名の市町村教育委員や学校教職員の皆様にご参加いただきました。当日は天気もよく、施設周辺の紅葉も見頃を迎えていました。



小河内貯水池管理施設を見学

施設見学会では、小河内貯水池管理事務所長をはじめ、職員の方に施設の概要をご説明いただきました。講演会は、町教育委員会の野田豊指導主事と、国立極地研究所広報室長の熊谷宏靖氏による『南極観測の魅力を子供たちに』をテーマに実施しました。野田指導主事が同行した「第64次南極地域観測隊」での活動について映像や写真を交え紹介しました。過酷な環境下での活動や、南極と奥多摩町を衛星回線をつないだ授業の様子など、参加者の皆様は大変興味深く耳を傾けられていました。



講演会の様子（写真右 野田指導主事）

### おくたまコラム

聞くみ

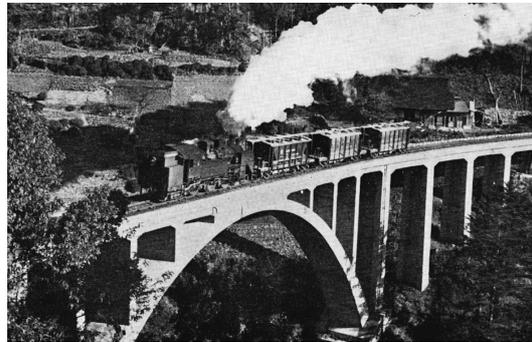
「陸橋を走る」

C11型蒸気機関車

教育委員 小峰 一郎



現在の除ヶ野橋梁



写真は東京都水道歴史館参考

栃久保の根元神社下から除ヶ野住宅方面を見るとアーチ型の美しい橋を見ることが出来ます。

この陸橋は昭和13年に始まった小河内ダム建設時、資材運搬用に建設された蒸気機関車のための陸橋です。昭和25年から工事が始まり23本の陸橋と23本のトンネルという今の技術でも大変な工事、それをたった2年間で完成させました。6.7kmを8区分に分け8社が同時進行で完成させたそうです。

今でも奥多摩むかし道を歩くと、所々に廃線になった陸橋やトンネルを見ることが出来ます。同じ陸橋でも形が違うのは工事をした会社が違うためです。

小河内ダム建設は多くの悲しい歴史がありました。湖底に沈み、退去させられた945世帯、6000人の人々、また、ダム建設により87名という尊い命の下、東京都民の生活を支えています。

奥多摩町の歴史的建造物として、また観光資源としていつまでも残したいものです。

### 小河内ダム完成からもうすぐ70年 ふるさとのダム 水質観測船に乗船!!

11月12日に古里小学校と氷川小学校の4年生が合同で、社会科見学(水道施設見学会)に行ってきました。

まず始めに訪れた小河内ダムでは、ダムの構造や役割等について、施設内を巡りながら教えていただきました。また、水質観測船に乗せていただき、湖面上から小河内ダムを見渡すことができました。関係者以外の乗船は初めてとのこと、大変貴重な経験となりました。

その後、羽村の堰(多摩川展示室と玉川兄弟像見学)、小作浄水場などの水道施設を見学しました。



玉川兄弟像前にて

水が私たちのもとに届くまでに、どのような旅をしてくるのか、どのような人々が関わっているのか等、これまで学習してきた内容を自分の目でしっかりと確かめることができました。ご協力いただきました東京都水道局の皆様、ありがとうございました。

報告 古里小 竹西晴香

### 奥多摩中学校 第2学年移動教室実施

1月21日〜23日の3日間、新潟県湯沢町岩原スキー場にて移動教室を行いました。3日間で10時間の講習に全生徒が参加し、スキー板を履くこともままならなかった生徒も、3日目の講習では、中央リフトに乗り新雪の積もるゲレンデを自由自在に滑ることができるようになりました。

2日目は、夜から降り続いた50センチを超える雪に、1日目の疲れを感じさせない興奮を見せる生徒の姿が印象的でした。ふかふかの雪の中に飛び込み、体全体で大自然を感じるなど、笑顔あふれる時間を過ごすことができました。

宿のヒルサイドインガーデンクスでは、温かい食事ときれいな客室で快適に生活することができました。

特に、新潟県産のコシヒカリと山の伏流水で炊いた白米は、疲れた体が求める最高の味でした。普段から給食の完食率が高い2年生ですが、競い合うようにお替りをする場面もあり、オーナーさんも驚いていました。

大雪警報も出る中のスキー講習でしたが、大きなケガや体調不良者もなく、3日目の講習後半は、奇跡的に晴天に恵まれました。気持ちよく滑り切ることができました。

来年度の修学旅行につながる行事となり、生徒の成長を感じることができた3日間となりました。

報告 相澤昌孝

